

教 育 研 究 業 績

氏名 藤田 寿伸

学位： 博士（教育学）

| | |
|----------------------------|------------------------|
| 研 究 分 野 | 研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド |
| 子ども学、幼児教育学、芸術学、美術教育学、デザイン学 | 保育と造形表現、イタリアの創造的な幼児教育 |
| 主要担当授業科目 | 基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ、図画工作科指導法、他 |

| 教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項 | | |
|---|---|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 1) 幼稚園における保育指導の実践 2) 乳幼児親子発達教室での実践 3) 保育者養成短期大学授業での実践 4) 私立小学校図工科指導での実践 4) 保育者養成校での実践 ワークショップ・研修指導 1) 子どものための造形教室指導 2) 乳幼児親子教室指導 3) 横浜市幼稚園協会研修 4) なら歴史芸術文化村ワークショップ指導 | 平成 20 年～30 年 令和元年 令和元年 令和元年～3 年 令和 3 年～ 昭和 59 年～ 令和元年 令和 3 年 令和 7 年 | 保育における造形表現指導では事前に説明用の大型試作を作り、視覚的に理解しやすい指導を行った。 乳幼児親子教室の内容に合わせた教育遊具を設計し 3D プリンターで作成して指導に導入した。 保育者養成指導では主に造形活動とその他の活動の連携をふまえた活動事例を紹介、指導した。 小学校図工科指導では実物見本による説明の他、動画などによる ICT を利用した授業指導を行った。 保育実践に応用可能な造形実技指導と 3D モデリングソフトを使った乳幼児向け玩具デザインを活用し指導を行った。 1984 年（美術大学在学中）から 2019 年まで、世田谷区内の小中学生向け美術教室講師を務めた。 2019 年から 2020 年まで伊勢丹新宿店直営乳幼児親子教室「ここの森」にワークショップファシリテーターとして勤めた。 2021 年横浜市幼稚園協会研修講師として三回の保育造形ワークショップを指導した。 2025 年 6 月なら歴史芸術文化村で開催されたレッジョ・エミリアの幼児教育展示に関連したワークショップ講師を務めた。 |
| 2 作成した教科書、教材 | 令和元年 令和元年 平成 20 年～ | 保育者養成指導の授業資料を内容毎に作成し、授業に活用した。 乳幼児親子教室の内容に合わせた教育遊具を設計し 3D プリンターで作成した。 保育および小学校図工科指導では活動内容・指導内容に合わせて教材を作成し、授業で活用した。 |
| 3 教育上の能力に関する大学等の評価 | 令和 4 年～ | 学生による授業評価アンケートにおいて高い評価を得た。 |
| 4 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 5 その他 | | |

| 職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項 | | |
|-----------------------------------|--------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 幼稚園教諭二種免許 幼稚園教諭一種免許 | 平成 22 年 平成 23 年 | （平 22 幼 2 第 43 号） （平 22 幼 1 第 77 号） |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 4 その他 | | |

| 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項 | | | | |
|--|---------|-----------|----------------------------|---|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| (著書) | | | | |
| 1 『表現の指導』 | 共著 | 2013 | 玉川大学出版部 | 第五章 保育所、幼稚園の身体表現の実際 2 |
| 2 『教育の知恵 60』 | 共著 | 2018 | 一藝社 | ジョン・ロック、シュタイナー、コメニウス、モンテッソーリの項 |
| 3 『レッジョ・エミリア市自治体立乳児保育所と幼児学校の事業憲章』 | 共著 | 2021 | JIREA | 原著イタリア語版より翻訳協力 |
| 4 『子どもの造形表現』 | 共著 | 2022 | 教育情報出版 | 5-5 フェルトペン、割り箸ペン、6-12 音との出会い：音をかく、10-5 海外の保育の取り組みから I |
| 5 『子どもの文化』 | 共著 | 2024 | 教育情報出版 | 12-4 海外の児童文化、コラム 6 イタリアの人形劇 |
| 6 『レッジョ・エミリアのアートと創造性』 | 翻訳監修 | 2025 | 北大路書房 | 原著イタリア語版より翻訳監修 |
| (学術論文) | | | | |
| 1 幼稚園年少児の描画活動の展開と表現の考察 | 単著 | 2019 | 教育文化学会紀要第 7 号 | 幼稚園での保育実践経験をもとにした、年少児一学期の描画表現活動に関する考察 |
| 2 ブルーノ・ムナーリの芸術・教育活動と諸感覚に関する研究ノート | 単著 | 2020 | 東京学芸大学大学院・学校教育学研究論集第 41 号 | イタリアの芸術家ムナーリの諸活動の概観と芸術教育に関する著作の翻訳研究 |
| 3 レッジョ・エミリア市の幼児教育とブルーノ・ムナーリの芸術教育の関係性 | 単著 | 2020 | 日本美術教育連合 | イタリアの幼児芸術教育の現地調査とレッジョ・エミリア幼児教育とムナーリの関係性の考察 |
| 4 乳幼児教育のための 3D プリンターによる触覚遊具の開発 | 単著 | 2021 | 教育文化学会紀要第 9 号 | 乳幼児親子発達教室での 3D プリンターを活用した触覚遊具開発の事例報告 |
| 5 ブルーノ・ムナーリの教育に関する先行研究の調査と考察 | 単著 | 2021 | 美術科教育学会紀要第 42 号 | イタリアの芸術家ムナーリの芸術教育に関する |
| 6 イタリアにおけるブルーノ・ムナーリの芸術教育の俯瞰 | 単著 | 2021 | 大学美術教育学会紀要第 53 号 | イタリアと日本の先行研究調査 |
| 7 保育者養成における視覚言語を活用した学習の考察 | 単著 | 2022 | 小田原短期大学研究紀要第 51 号 | ブルーノ・ムナーリの教育に関するイタリア国内の研究の調査と俯瞰 |
| 8 ブルーノ・ムナーリの「触覚のワークショップ」にみる幼児の能動的な学びにおける触覚の役割と可能性：触覚に注目した遊びと造形表現から得られる手がかり | 単著 | 2022 | 東京学芸大学大学院 | 視覚言語を積極的に保育者が活用することの意義と実践についての考察（研究ノート） |
| 9 子どもの教育におけるブルーノ・ムナーリとモンテッソーリの関係 | 単著 | 2023 | 同大学院連合学校教育学研究科博士課程学位論文 | 同大学院連合学校教育学研究科博士課程学位論文 |
| 10 マリア・モンテッソーリ、ブルーノ・ムナーリ、レッジョ・エミリアの創造的教育メソッドの比較 | 単著 | 2024 | 大学美術教育学会「美術教育学研究」第 55 号 | イタリアにおけるムナーリの造形表現教育とモンテッソーリ教育の関係および社会的認識の調査と考察 |
| 11 1970 年代イタリアの教育改革運動とブルーノ・チアリの教育観の考察 | 単著 | 2024 | 日本美術教育連合日本美術教育研究論集第 57 号 | 幼児のための創造的な教育の継続と展開に必要な要素について、イタリアにおける創造的な教育方法事例の比較による考察 |
| 12 イタリアにおけるミュージアム教育と子どもミュージアムの現在 | 単著 | 2025 | 子ども学教育論集第 4 号 | レッジョ・エミリアの幼児教育に影響を与えた MCE 教育運動の中心人物の一人チアリの著書翻訳にもとづく 70 年代イタリアの教育改革運動思想の研究 |
| 13 ブルーノ・ムナーリの教育の発展 | 単著 | 2026 | 教育文化学会紀要第 17 号 | 近代イタリアのミュージアム教育史外観と子どもの教育との関係の調査報告 |
| (その他) | | | | |
| 1 幼稚園年少児の描画活動の展開と表現の考察 (2) | 口頭発表 | 2019 | 第一回教育文化学会 | 幼稚園での保育経験をもとにした、年少児の表現活動に関する実践事例と考察 |
| 2 乳幼児のための触覚遊びの考察 | 口頭発表 | 2020 | 第四回広域科学教育学会 | イタリアと日本の事例にみる幼児のための触覚による教育手法の可能性の考察 |
| 3 「好奇心をもった女の子と男の子のための銀河コロナウイルスガイド」 | 翻訳 | 2020 | 横浜国立大学 HP、日本保育学会会報 179 号報告 | ローマ、ジェノバ、ミラノ、ヴェローナ子どもミュージアムによる子どものためのコロナを知る |
| 4 イタリアと日本におけるブルーノ・ムナーリの芸術教育の発展 | 口頭発表 | 2021 | 第 43 回美術科教育学会 | 絵本日本語版製作に協力 ブルーノ・ムナーリの教育に関する日伊の先行研究調査に基づく考察 |
| 5 レッジョ・エミリアにおける子どもと芸術の関わり (2) | 口頭発表 | 2023 | 日本保育学会第 76 回大会 | レッジョ・チルドレン『One City, Many Children』翻訳を元にしたレッジョ・エミリアの幼児教育と芸術的観点の考察 |
| 6 「アートと創造性」の可能性 | 自主シ | 2023 | 日本保育学会第 | レッジョ・エミリアのアトリエリスタ著書翻訳に |

| | | | | |
|--|---------------|------|-------------------------------------|--|
| 7 イタリアの創造的教育手法とその展開 | ンポジウム 口頭発表 | 2023 | 76 回大会 | 基づく幼児教育における芸術の可能性の考察 |
| 8 ペダゴジカル・ドキュメンテーションとコミュニティ形成の関係を解き明かす | 自主シンポジウム | 2024 | 第 57 回日本美術教育研究発表会 日本保育学会第 77 回大会 | モンテッソーリ、ブルーノ・ムナーリ、レッジョ・エミリアにおける創造的教育手法の比較 科研費研究グループによる自主シンポジウム：保育におけるドキュメンテーションと保育のコミュニティ形成に関する研究報告 |
| 9 ペダゴジカル・ドキュメンテーション、なに？だれのため？なんのため？ | 自主シンポジウム | 2025 | 日本保育学会第 78 回大会 | 「ペダゴジカル・ドキュメンテーションの多様性と対話に向けた保育者の主体的な関わり」報告 |
| 10 ペダゴジカル・ドキュメンテーションがもたらすコミュニティの深まり —ひらかれたアトリエに着目して— | 自主シンポジウム | 2026 | 日本保育学会第 79 回大会 | 「イタリアにみるひらかれたアトリエの捉え方、日本の保育者養成におけるアトリエとペダゴジカル・ドキュメンテーションのプリミティブな体験」報告 |
| : | | | | |

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。